

# 令和5年度 第1回 荒尾市観光振興計画策定等委員会 議事録要旨

日時：令和5年7月19日（水） 午後3時30分～午後5時00分

場所：チャレンジプラザプラあらお

出席者：荒尾市観光振興計画策定等委員会委員 14名（別紙出席者名簿のとおり）

事務局：産業振興課課長 岩下和隆、同観光推進室室長 岡村哲明、同副主任 山下裕貴子、  
同副主任 早野孝輝 同主事 築地早紀

オブザーバー：荒尾市観光協会 徳村

## 1. 開会

事務局が、開会のあいさつと資料の確認を行った。

## 2. 開会あいさつ

山代委員長が、あいさつを行った。

- ・これから道の駅、市民病院ができ色んな形で荒尾市が素晴らしい街になるかどうかの境目となると思っている。炭坑電車も万田坑に動く状態で帰ってきた。炭坑から始まった荒尾なので、来た人に、荒尾らしさを感じていただきたい。ひとつでも多く荒尾に観光資源を増やそうと頑張っている。
- ・コロナも明けたので観光客に来ていただくように頑張る。沿岸道路も伸びて、荒尾で降りてグリーンランドや万田坑、荒尾干潟に来て休暇を味わっていただく終着点となる。また、道の駅も子育てや福祉施設もできるので、土日祝日だけではなく、平日も利用者がいる新しいタイプの道の駅になり得る。産学官民で全部のいいところを集めて、荒尾を良くしたいと思う。

## 3. 委員紹介

事務局が、今回から新たに参画する委員の紹介を行い、それぞれからあいさつを行った。

## 4. 議事

### (1) 令和4年度の成果検証について

事務局が、資料1に基づき説明した。意見等は以下のとおり。

#### 【意見等】基本方針1

- 総観光客数はどのように算出しているか教えていただきたい。

事務局 総観光客数は、本市が実施する統計調査で出た数値になっている。

- まるごとあらお物産館のリニューアルオープンにむけて大規模な改修を行ったとあるが、詳しく説明をお願いします。

→ 基準値の841万円を12か月で割ると74万円だが、小売店は74万円では成り立たない。これを改善するために無人化のシステムを整えている。人件費がかからなくなるので、赤字が無くなるようにリニューアルを行った。

- 修学旅行宿泊校数について R5 はどのくらいの数値になりそうか。同じような数値になるのか、コロナ明けて R 2 に近い数値になるのか。
- 事務局 コロナ禍で近隣地域から来客があり結果的には増加している。コロナが明けて九州以外に行くとなると減る傾向になるのかなと思っている。
- 数値は拾いきれてない部分もある。また、修学旅行は来る日が同じで宿泊を受け入れない。3年周期で来るので、コロナが明けて減ると思う。改めて取り直さなければならない。だが、長崎・熊本の修学旅行は評価が高い。町単独では難しいので、県単位でやっていくと難しくない様に思う。2年先3年先を見据えた動きが大事になる。
- インバウンドの荒尾しか体験できない理由として、宮崎兄弟生家や荒尾干潟、万田坑をすべて絡めてインバウンド受けするツアーを組むと荒尾しかないものが出来るのではないかと思った。また、荒尾干潟は写真映えるので、SNSへの投稿が多い。サンセットカフェの際に実際に来ている人たちに声掛けや、カメラマン向けのフォトコンテストを行う等すると、一般の人もSNSに投稿しやすくなる。まるごとあらお物産館で取り扱っている商品を使って料理を提供する。その際に小代焼の器に乗せることで小代焼のPRにもなるのではないかと思う。
- 今年度はYoutube撮影に取り組むので、活用してPRを行い、誘客を図る。松永刀剣さんには欧州等から来客があっている。来ている様子を発信していきたい。
- 荒尾干潟水鳥・湿地センターの入館料は無料と思うが、入館者数を出してある。荒尾への貢献度とラムサール条約の関係性について教えていただきたい。
- 事務局 水鳥・湿地センターについて、直接的な経済効果はないが、干潟の写真SNSに投稿したり、センターに来た人がその後市内の飲食店に行くことで、経済効果を図っている。その他に、小学生は市内外から来て大人になって再訪問してもらう。修学旅行でもマジック釣りに来ていただき経済効果を図る。まずは水鳥・湿地センターに来てもらい荒尾の事を知ってもらいたいと考えている。単体的なものではなく広い意味で経済効果を図りたい。

#### 【意見等】基本方針2

- 情報発信については、途切れるのが良くない。内容については個人の感度で、何が引っ掛かるかは分からない。多く発信することでヒットする事があると思う。
- 観光協会のHPについては、昨年は主に万田坑で実施したイベント時に有料広告配信を行い、各SNSからHPへ流入した。実際にはイベント情報の閲覧が多かった。
- Instagramの目標値についてはどうお考えか。
- 今日の時点で1700超。今年度入って4か月で100名程増えているので、今年度の目標値に到達する可能性がある。イベント時が増えるので、荒尾夜市をメインに増加が考えられる。
- 観光アプリ「おでかけあらお」の数値が低いけどどのように活用を考えているか。
- 事務局 昨年度はアプリを使ったデジタルスタンプラリー「バレンタインデースタンプラリー」を実施した。荒尾への来訪はグリーンランドの100万人/年を中心に、遠方から来訪があっている。遠方の方がアプリをダウンロードするの

は、結果として困難であった。気軽に荒尾に来れる近隣の方をターゲットに変更し、デジタルスタンプラリーの活用を検討する。

○ 単独で難しいことは広域で連携して取り組むことが必要。

○ 荒尾市観光協会の HP 閲覧数のところで、動画の再生回数について記載があるが、観光協会の HP には動画は上がってないのではないか。SNS に投稿した分の合算になるか。

→ Instagram の再生回数になる。

→ Instagram のフォロワー数のところに記載すべきではないか。また、Instagram のフォロワー数だけを指標にするのではなく、SNS 全体にしてはどうか。

→ 動画を活用して HP への誘導を図ったので記載はそのまま良いと思う。SNS については、Instagram だけでなく良い。

事務局 HP への閲覧をどのようにして伸ばすかなので、原因の一つとして記載してあると思う。Instagram については、炭坑電車の情報を中心に毎日のように発信していただいております。

### 【意見等】基本方針 3

○ 駅の活用について、7 月頭に大牟田駅で町おこしと SL 人吉を絡めたイベントを行った。約 5 時間のうち、列車が実際にとまったのは 1~2 分の 2 回で、700 人の来場があった。大牟田駅でのイベントはいつも 600~700 人来場される。荒尾駅と大牟田駅で連携してイベントを実施すると面白いと思うが、そのような話は進んでいるか、もしくは構想が全くないか。

事務局 一緒にやる構想は今のところはない。しかし、昨年のおそびさんと一緒に駅舎内で飲食の販売を行った。大牟田市は隣で経済圏も一緒なので、大牟田市との連携もしやすい。JR の管轄が荒尾駅は大牟田市と別だが、良いアイデアを頂いたので JR さんとも連携してやっていきたい。

○ 子育ておもやいのタクシー事業に関して、実際に子育て中だが事業のことを全く知らなかった。幼稚園や保育園での PR が必要と感じた。

事務局 行政の PR 不足であった。実際に使った方で、知らない人に預けるのが怖いという意見があった。運転手の顔写真を載せる等の工夫が必要。放課後の習い事での利用等で一定のニーズはあると思っていたが、利用者が少なかったのはご指摘どおり周知不足で、担当課も重々分かっている。次回実施するときは参考にさせていただく。

○ 広報不足に加えて、利用者が慣れていないのもあった。今後継続的に行うのであれば利用者側も慣れて利用が増えると思う。大牟田との連携で乗降客も増えると思うので、交通関係者の課題として考えていく。

○ おもやいタクシーが 14,000 人程利用されているがどれくらいで利用者が溢れるか。

→ システム上は、2 台/日で 75 組対応可能となっているが、実際には高齢者利用という面での計算には至っておらず、感覚的には 15,000 人程が上限。乗降りの時間や、ルートについて加味する必要がある。また、土日の利用が平日の半分。平日は高齢者が病院利用に使用する。観光利用に絡めると 16,000 人程に増やすことが出来ると思う。

→ 観光として土日使用するのは大歓迎という事か。むしろ、子どもの送迎に平日使用はやらない方がいいのか

など思う。

→ 子育て応援タクシーは通常運営の後の 17 時から 19 時に行った。時間帯をずらしての実施は今後も考えられるが、観光目的にシフトした方が利用者の増加にはなると考える。

→ 観光での使用はメリットがあるのか。

→ おもやいタクシー単体でいえば無い。

○ タクシー業としてもこのまま行けるとは思っておらず、今の状態と、SDGs に絡めて乗り合いを行い、排気量を減らすやり方の 2 分化した形でやっていく必要があると感じている。最初はおもやいタクシーも難しいと思ったが、認可してやっていけていることは素晴らしい。このシステムも他市からよく視察に来る。

○ AraoPay の影響は大きかったと思う。私の周りも好評だった。今年度も実施するか。また、この予算は国から来るのか。

事務局 AraoPay は R3 から開始した。それまでは紙媒体のみ。今年度も実施する予定。少しずつデジタル化するために、今年度は紙媒体の分をカードにする。財源は、国のコロナや物価高騰の交付金を使用している。来年度以降は未だ分からない。国からの交付金があれば実施する予定。

○ できれば事業者も負担金を払って公然的にやれるプレミアム商品券を作れたら良いが、単独では厳しいので行政支援が必要。

○ グリーンランド遊園地へのお客様は大牟田駅で降りる。荒尾は降りてからのバスがない。季節の課題が大きと思うので、シーズンだけ路線バスを増やすことが出来ると良いが難しいと思う。南九州から来ている人やセット券を買っている人は JR に聞くと人数が分かると思う。お客様からすると JR 利用は料金が安くなったり（セット券で割引）、荒尾駅を利用することで長く遊べるようになる。シーズンは臨時バスとしてやってみる価値がある。

事務局 熊本駅からグリーンランドに行く時も大牟田駅を案内されることと聞く。荒尾駅から直接グリーンランドに行くバスもあるが、ほとんどのバスがシティモールに行くので荒尾駅、グリーンランド、シティモールを絡めることで見えてくるルートがあると思う。JR さんとも話をしているので参考にさせていただく。

## (2) 令和 4 年度の実施計画について

事務局が、資料 6 に基づき説明し、内容については承認された。意見等は以下のとおり。

### 【意見等】

○ ご協力させていただける面もたくさんある。今年度も色々な場を提供するので、そこで荒尾市のプロモーションを行う。今回色々な取り組みについてお話をいただいたので、今後のプロモーションの一つのフックとして提供させていただき、たくさんのお客様に来ていただけるように取り組みたいと考えている。

○ 行政は情報発信が苦手という部分もあると感じた。続けていくことが簡単なようで難しい。玉名地域振興局も荒尾玉名地域観光推進協議会や教育旅行推進協議会といったところで荒尾市と連携しているので、応援していきたいと思う。

○ コロナが明けて様々な準備が整ってきている印象を受けた。進捗を進めていくと KPI に近づいてくる。

総観光客数と観光消費額単価について、国の目標においてもインバウンド中心に数から質になっている。そうした中で、観光客数は道の駅の整備等で伸びていくと思うが、宿泊消費単価は 29,000 円に向けてどのように進めていくのか、しっかり検討する必要があると強く感じた。R4 年度は県の宿泊キャンペーン等の割引が入って回答者は低めの回答をしているように思う。今、宿泊単価は高くなっているため受け入れられると思うが、泊っていただく方の付加価値を高める事、また長く滞在してお金を使っていただくことが大事になってくる。グリーンランドに来て、プラスアルファを作る。例えばこれまでと違う形の島原半島や夕陽を眺めることが出来る宿泊施設等が出てくると人の動きも出てくる。もう一つ、修学旅行の SDG s ということについて、九州の修学旅行のイメージは、平和学習、農山村漁村体験がある。そこにもう一つ新たな軸を作っていくと良いと考える。SDG s や環境に関わるところで、長崎や阿蘇を絡めて荒尾で体験できるものを、県等の力を借りて新しいブランドを作る事で、荒尾から発信していくような取り組みになると良いと感じた。ワンチームで情報発信が観光計画のテーマになっているので、各団体から発信していただくことで荒尾に来て滞在しお金を使っていただく、みんなで取り組みれば本筋が変わるので合意して取り組んでいただきたい。

## 5. 各団体からの情報発信

関係団体間での情報共有を密にし、相互の情報発信を進めるため、各団体から情報発信を行った。内容は以下のとおり。

### 【発信内容】

- 荒尾の夏は梨から始まる。有宝、凜夏の新品種がでている。夏梨の販売に力を入れて取り組んでいるのでご紹介をお願いしたい。また、8/5に万田坑で荒尾夜市を実施する。荒炎祭の後継事業として手探り状態で考えながら、今回はナイトバブルショーを実施する。市民の方に楽しんでいただき、荒尾に行けば楽しいことがあっていると提供いただけることを目指している。皆さんもぜひ遊びに来てください。

## 6. その他

事務局が、報告事項を行った。内容は以下のとおり。

- ・議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力をいただきたい。
- ・9月を目途に企画部会を開催するので、メンバーの選出などについて協力をいただきたい。

## 7. 閉会

事務局が閉会を宣言した。